

## 協働パイロット事業 (H24) 企画提案書

団体名：特定非営利活動法人 フードツーリズム研究所

## 1. 事業の名称

「ひとつの静岡」づくり：農村体験をキーワードに「むら」と「まち」の子供間交流をはかろう！

## 2. 事業方針（市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください）

静岡市の山間部では、高齢化による労働力不足、後継者問題などによって、地場の農業が危機に瀕しています。それは農村コミュニティの崩壊にまでつながりかねません。

わたしたちは、この現状を憂い、山間部の農業を元気づけたいと思っております。そのために必要なことは、まず、農村と都市部の人たちとの交流、とくに将来的なことを考えれば「子供同士」の交流を深めることが大切であると考えます。そこでわたしたちは、「まち」の子供に農村体験をしてもらい、「むら」の子供や山間部の農業者との「ところどころ」の交流を深める」事業を提案いたします。具体的には、「石垣イチゴの定植体験」、「サトイモ掘り体験」、「竹細工・竹とんぼ・竹馬づくり体験」、「イチゴジャムづくり体験」を考えています。

都市部の子供に、実際に農村での生活を体験してもらい、農村の子供たちや農業者と語らいながら収穫した農産物を使って自然の中で料理を行うことにより、お互いのところの触れ合いが深まるはずで、山間部の農業者と都市部の相互理解が深まることは、それは静岡市の農業を守ることにもつながります。また、都市に住む人にとっても直に農産物の安心・安全が見えることにもなります。

以上、山間部の農村の子供たちや農業者と都市に住む子供たちとの交流を深めることは、静岡市民にとって、「ひとつの静岡」としての郷土愛を高めることにもなります。「ひとつの静岡」ができあがれば、山間部の農業も元気づくはずで、ぜひ、われわれのNPO法人とともに行政が力を合わせてこの取り組みを実現させていくことが出来ればと考えています。

## 3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

農村体験に受け入れた子供たちは、提案団体と現地の農業者の方々との協力で、「農作業の指導」、「料理体験実習」、「農産物加工品の作成や竹工作」を行います。行政には、①都市部の子供たちの手配（小学校への周知）、②食育や情操教育の専門家（保健所、等より）の派遣、③「むら」と「まち」の子供が意見交換をする場の提供（公民館、等）、④ネットや市政広報紙での広報の支援をお願いいたします。

## 4. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

都市部と農村の子供同士が、ところからの交流を結んでくれれば、それが最大の成果です。そして、都市部の子供たちの家族のなかで、週末農業を始めたい、農産物についての知識を深めたい、等、農村の問題に向き合い始める人などが出てきてくれることが目標です。事業の最後に、子供たちに「作文」を書いてもらって、本事業がどれほどの効果をもたらしたのか（農村への関心度や静岡への郷土愛）をはかります。

## 5. 事業計画

農業体験は、「石垣イチゴの定植体験」(久能)、「サトイモ掘り体験」(両河内)、「竹細工・竹とんぼ・竹馬づくり体験」(両河内)、「イチゴジャムづくり体験」(久能)を計画しています。各体験につき、都市部から20人の子供を受け入れます。全部の体験に参加をしてもらうことが前提です。保護者との参加でもかまいません。なお、年末、年始には農業フェスタを行って、これらの農業体験に参加していなかった都会のひとたちにも、農村を訪れていただき、交流を深めてもらいたいと考えています(ただし、農業フェスタはオプションとして提案団体の単独主催)。

## 6. スケジュール

### 2012年

- 7月 提案団体と行政とでの打ち合わせ。
- 8月 都市部の子供を募集。
- 9月 久能で石垣イチゴの定植体験
- 10月 両河内でサトイモ掘り体験
- 11月 両河内で細工・竹とんぼ・竹馬づくり体験
- 12月 農業フェスタⅠ 芋煮会(都市と農村の交流Ⅰ)

### 2013年

- 1月 農業フェスタⅡ 餅つき(都市と農村の交流Ⅱ)
- 2月 久能でイチゴジャムづくり体験
- 3月 体験した都市の子供や家族と、農村の子供や農家の方との意見交換・懇親会。報告書の作成。

7. 実施体制および主要スタッフの経歴

運営の主体は、特定非営利活動法人 フードツーリズム研究所です。責任者は当該法人の理事長です。その理事長の下で、当該法人の理事が、各農村体験の責任者をつとめます。体験の実際の指導は、各地元（久能、両河内）の方々（主婦、農業者、等）です。事務局は、当該法人の事務局長がつとめます。

スタッフ

理事長 新田時也 東海大学海洋学部 准教授

副理事長 落合 光正 ブルーベリー農園主

理事 浅原 昌美 清水商工会 元局長

理事 飯沼 稔 東海大学 元教員

理事 山脇 大治 スルガ環境科学研究所 所長

理事（2012年度総会で予定） 樫出 隆一 中小企業診断士

事務局長（2012年度総会で予定） 松本 匡広 御前崎漁業協同組合 総務部 総務課

8. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

以下、提案団体のホームページに掲げている自己紹介文です。

URL <http://foodtourism.web.fc2.com/index.html>

////////////////////////////////////

わたしたち、フードツーリズム研究所は、「こころ」と「からだ」で地域の食文化に触れることができる体験型イベントの企画・提供を通して、観光地域づくり・食育・環境教育・観光ビジネス・地域経済活性化に貢献をしています。

////////////////////////////////////

スタッフの経歴をご覧いただいてもお分かりのように、わたしたちは、観光資源の開発における専門集団です。地域の資源を活かす取り組みとして、地元の食材を使っての屋外での料理体験を提供しています（独自性）。静岡市には、本提案団体のように「食」を活用した組織だった団体の活動はありません（先駆性）。本提案団体が特定非営利活動法人となってまだ1年が経ちませんが（2011年10月登記）、すでに「食」を活用した地域おこしとしては、「タケノコ掘り体験」、「かまどでタケノコご飯づくり体験」、「流しそうめん実演体験」などを行っています。また、三島に出張して、「三島のうなぎさばき体験」も行いました。静岡市葵区のお寿司屋さんにお願して、静岡のお寿司文化を知ってもらおうと「お寿司の握り方、笹きりの仕方の体験」も企画し成功させました。

(様式3)

協働パイロット事業 (H24) 見積書

団体名: 特定非営利活動法人 フードツーリズム研究所

企画のタイトル:  
「ひとつの静岡」づくり: 農村体験をキーワードに「むら」と「まち」の子供間交流をは  
かろう!

項 目	金 額	説 明
謝金	60,000	各作業の指導員。20人。@3,000。
交通費	40,000	各イベントのスタッフ。20人。@2,000。
イベント場借料	12,000	4回。@3,000。
原材料費	30,000	イチゴ、イチゴ苗、サトイモ、竹。
報告書作成費	20,000	用紙、トナー。
消耗品費	40,000	ナイフ、ジャム用鍋、食器、等。
雑役務費	30,000	アルバイト。20人。@1,500。
通信運搬費	6,000	切手、等。
小 計 A	238,000	
消費税 B = A × 0.05	11,900	
合 計 A + B	249,900	

◎実費弁償契約の希望の有無  有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な用途
参加者 20人 × 4回 × @500	40,000	テキスト代、等。

## 企画提案の概要書

提案団体名	特定非営利活動法人 フードツーリズム研究所
企画案のタイトル	「ひとつの静岡」づくり：農村体験をキーワードに「むら」と「まち」の子供間交流をはかろう！
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	静岡市の山間部では、高齢化による労働力不足、後継者問題などによって、地場の農業が危機に瀕しています。わたしたちは、この現状を憂い、山間部の農業を元気づけたいと思っております。そのために必要なことは、まず、農村と都市部の人たちとの交流、とくに将来的なことを考えれば「子供同士」の交流を深めることが大切であると考えます。そこでわたしたちは、「まち」の子供に農村体験をしてもらい、「むら」の子供や山間部の農業者との「ころところ」の交流を深める」事業を提案いたします。山間部の農村の子供たちや農業者と都市に住む子供たちとの交流を深めることは、静岡市民にとって、「ひとつの静岡」としての郷土愛を高めることにもなります。そして、都市部の子供たちの家族のなかで、週末農業を始めたい、農産物についての知識を深めたい、等、農村の問題に向き合い始める人などが出てきてくれることが目標です。
金額	¥249,900-

## 《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ htmlで表現できない複雑な表現方法はご利用できません。